

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472800293		
法人名	特定非営利活動法人 グループホームなごみ		
事業所名	特定非営利活動法人 グループホームなごみ		
所在地	大分県玖珠郡玖珠町大字山田2734番地		
自己評価作成日	平成25年 12月23日	評価結果市町村受理日	平成26年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成26年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域行事への積極的参加と、なごみ内での癒しの空間創りに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の意見を、地域・行政につなげ、実践し、地域住民の安全にもつながっている。 ・積極的な地域交流が継続的に行われており、利用者の支援、地域活性化につながっている。 ・同業者との交流・連携が事業所運営、利用者支援に活かされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を理解し全員が確認し地域との関連性を重視した理念を大切にしている。朝礼時、理念を理解するよう、また具体的ケアについて確認し合っている。	「ゆっくり一緒に楽しく」の理念を大切に、利用者、地域、事業所のより良い関係づくりにも活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方達から畑の作物の差し入れや、区民祭・小学校の運動会等と積極的に出掛けている。運動会参加後には、雑巾を手作りし小学校へ届けている。	日常的に近隣住民とのふれあいがあり、今年度、地域の小学校の運動会では、事業所専用のテントが準備され利用者、職員全員で競技に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	未だ、キャラバンメイトとしての活動が不十分であるので実施していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会で話し合われたことが一つずつ実現されている。屋外灯や近くの川の土あげ、地域行事の参加等。	今年度、運営推進会議で提案された、事業所近くの河川の葦の除去や清掃が行政に働きかけられて、大規模な清掃が行われ地域の安全にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議開催時に、詳細に説明し行政との連絡を密にしている。また、不明なことが生じたときには行政に相談し、担当者とは常に連絡を取り合っている。	高齢者福祉課の複数の職員が利用者や事業所運営に協力的で、より良い関係づくりが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はせず好きな時に外へ出かけられるようにしている。権利擁護については、職員が研修へ参加し、ミーティング時に勉強会を行う。	暴力行為や不眠の続く利用者の向精神薬、眠剤について主治医と話し合い助言を受け、減薬、中止につなげている。職員間で情報共有し、同じ対応に努めることで、穏やかに生活が送れ、家族とのより良い関係につながった事例がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者の身体に現れた内出血等はボディチェックノートに記載し、原因・再発防止に努めている。		

事業者名:グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修へ参加した職員とミーティング時に勉強会を行い支援につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を設け丁寧に説明している。特に利用料・看取り・リスク・重度化について事業所の取り組みを説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族からの訴えに対し耳を傾け、要望に応えられるよう努力しているがご家族との意思疎通がやや不十分な面がある為、各職員の説明能力の向上にも努めていきたい。	事業所近くに住む家族は、洗濯物交換時や面会の時に要望など聞いている。遠方に住む家族とは、電話で個別に意見や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時等に運営方針を説明し、職員の意思を反映・必要があれば随時意思をきき、迅速な対応を心がけている。	毎月開かれる職員会議で、利用者支援や運営について話し合われている。職員の意見やアイデアが利用者の個別外出支援や地域行事への参加につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直しを行い、休日・特別休暇・労働時間を改め、環境作りを行っている。超過勤務については記入しやすい環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT体制により、ケアの技術の向上に努め、職員の資格取得を支援し、研修会への参加を支援している。研修会については、代表、管理者による掲示が随時行われており、参加しやすい環境が出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、同業者と交流する機会がないので、今後、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていきたい。(他施設での実習等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は、ご本人が発した言葉の一つひとつに耳を傾け、不安解消の為に何が出来るか、職員間で話し合いながら支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や不安に思っていることにも耳を傾け、どのようにしたら良いか職員間で話し合い、ご家族へも提案しながら支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に、ご本人、ご家族と面談し要望を聴き、サービス内容を理解していただいた後、サービスを提供させて頂く。ご家族の要望に添わない場合には、他施設との連携を図り、調整を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごし支え合い、寄り添う介護を行う中で、個々のニーズに対応し、共に励まし合い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご家族とゆっくりお話が出来る環境を整え、疎遠になっている方にはお手紙で近況報告し、また職員も手伝うことで面会や外出の機会が増えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所での生活歴が長い方は、職員や近隣住民と、地域での新たな馴染みの関係が作られている。 毎週日曜日、教会へ、ミサに出掛けている方もおられる。	事業所の利用開始時に、家族、教会、事業所間で関係継続の支援に努めている。教会職員との送迎や家族の配慮を受けながら、毎週教会のミサに出かけている事例がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の会話は、以前に比べて増えているように見受けられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者とは、断ち切らない関係作りが出来ており、相談等受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めており、大切にしている。	日常生活の中で発せられた「ことば」から利用者の思いや意向を聞き取り、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	レクリエーション等、9名が同じ時間に同じことをすることが多かったが、個別の過ごし方が増えつつある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごした内容と心身状態を、申し送りと経過記録等を用いて、職員全体が把握できるよう努めている。その中で、特に利用者が生き生きとしたこと、昔からの趣味なども記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員からの情報を基に、計画作成担当者が介護計画を作成し、毎月の職員ミーティングにてご利用者の状況を中心にモニタリングを行なっている。	アセスメントを詳細に記入し、実践しやすく、分かりやすい介護計画が立案されている。職員会議で毎月モニタリングが行われ、6カ月に1回の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を観察し、細かく記録をすることで、ご本人が必要としている介護とは何か気づくことが出来るよう、申し送りにこまめに行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりを支えるための多機能化、ご本人やご家族のニーズには十分対応している。		

事業者名:グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の希望や体調に応じて、訪問美容院や馴染みの美容室へ出掛けている。また、定期的な地域ボランティアの慰問、おたから文庫(小学生)の慰問がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者個々の入居前からのかかりつけ医の継続受診を行なっている。定期受診は、ご家族対応で行われ、緊急時は、職員対応での受診支援を行なっている。受診時の情報の共有も行なっている。	定期受診は毎回、家庭に知らせ対応している。複数の専門医とのつながりを持っており、歯科は訪問診療が行われている。受診にも家族との絆を大切にする協力体制がとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護について疑問に思ったことなどを看護師へ相談し、連携を図りながら解決につとめている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医と密に相談し、ご本人にとって一番良い環境提供に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の状態変化が起きた際は、その都度ご家族と話し合いを持ち、事業所で出来ることを説明し方針を共有している。	事業所利用開始時に重度化、終末期に事業所でできること、できないことを伝え、重度化による住み替え等の支援や住み替え後もよりよい関係づくりに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応・事故発生時に備えて普通救命講習へ参加している。 マニュアルについては再作成が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を実施しているが、防災訓練が主になっている。今後は地震や水害に関する訓練も実施していく。 災害時に備え、近くの老人保健施設からの協力がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員で尊厳のあるケアを目指している。ご利用者を不快に思わせることがないように声かけ、接し方に留意している。	利用者の居室の訪室に対して、本人立会いのもとで行ったり、一人ひとりの主張を取り入れる支援に努めている。職員との係わりが深くなり、自発的な返事や主張が出来るようになった利用者の事例がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ自己決定していただくよう心掛けている。また、表情や反応をみながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせるよう努めているが、満足いくものではない。一日の過ごし方を柔軟に変えていけるよう努める。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時には、お化粧品をして頂いている。お出かけ時には、普段よりおしゃれをされる。汚染した衣類を着用していないか留意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや漬物をつけたり、茶碗洗い等も行なっている。行事食や旬の料理、ご本人の好物などを取り入れ、季節を感じられるよう工夫している。	近隣住民からの差し入れや、事業所の畑で収穫された野菜を利用した手作りの食事を中心に、外部からの食品を活用するなどし、利用者と職員が食卓を囲んで、和やかに食事を楽しむ支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	少食の方にはバランスよく食べて頂けるよう少しずつ盛りつけしている。又、食事形態を工夫し食べやすくしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを行い一人ひとりの力に応じた歯磨きのお手伝いをしている。 週1回、義歯を入れ歯洗浄剤にて洗浄消毒しているが、義歯が外れない方の口腔ケアがうまくいかない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツにパッドを使用し、トイレで排泄できるよう排泄チェック表を使用し、排尿の間隔が普段よりあいている場合は、自尊心を傷つけないよう声かけを行っている。	利用者の尊厳を大切に、全利用者が日中は布パンツを使用している。個々の利用者の排泄パターンを検討しながらトイレ誘導することでトイレでの排泄につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は、栄養バランスの取れたものが提供されており、便秘気味の方には、リハビリや腹部マッサージ、水分を多めにすすめる等行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日が確定されているが、希望者がいる場合はその日の入浴も行なっている。また体調に合わせ、清拭・シャワー浴など随時対応している。	週2日の入浴日となっている。一人ひとりの利用者がゆっくりと、おだやかに入浴できるよう職員間の話し合いが行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望と声かけにていつでも休まれるようにしている。以前家で使用していた家具や写真等を部屋に置き、落ち着いた居室環境になるよう努めている。又、安眠の為に希望者へ就寝前の足浴を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく薬が処方された場合には、副作用や留意点について情報を共有、薬ノートや服薬チェック表を用いると共に、職員2名での服薬確認にて、確実な服薬に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	金魚の餌やりやカラオケ、担当を決めてカレンダーの貼りかえや天気図チェック等行い、張り合いのある日々を過ごして頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、庭先の日だまりで日光浴や散歩を楽しんでいる。ご本人の希望を把握し、可能な限り出かけるようにしている。	日常的に外気を楽しむことができ、職員提案で個別の外出支援が実践されている。地域の小学校の運動会には、全利用者が出かけ、競技にも参加している。	

事業者名:グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時はお金を渡し、ご自分で払って頂けるよう工夫している。 ご自分で金銭を管理し、支払いをしている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望に応じて、日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。プレゼント等のお礼の電話はご本人がかけるようにしている。年賀状や暑中見舞いのハガキ作成も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の花を植えたり、行事ごとの飾り付けを皆で行い、季節を感じられるよう工夫している。 窓辺に置かれたソファ等、利用者が思い思いに過ごせる共有空間づくりを行っている。	日中、利用者の過ごす共用空間は、食事と居間スペースの住み分けが行われている。 手作りのペットボトルキャップののれんやティッシュペーパーの作品、手作りひな人形等が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良い場所にソファを設置し気の合ったご利用者同士で過ごせるよう工夫しているが、ソファの作りで座りが深く、立ち上がりの際に難しい時がある。また、共有空間の中での区切りがない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人とご家族の要望にて、出来るだけ使い慣れた家具を持ち込んで頂き家庭的な雰囲気でも過ごせるよう心がけている。ご利用者のベッド柵は職員手作りの布カバーで保護され、温かみのあるものにしてている。	家族と職員で話し合い備品を調達するなど、利用者の身体能力に合わせた安全で快適な居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのための空間としては、テーブルの高さがあわなかったりと不便もあるが、工夫することで自立した生活が送れるよう支援している。		